

カスリーン災害記録集Ⅰ

洪水の爪痕から、いま、そして、未来へ。
洪水写真集

カスリーン
50th
WATARASE

カスリーン
50th
WATARASE

カスリーン災害記録集Ⅰ

洪水写真集

渡良瀬川工事事務所

はじめに

昭和22年9月15日、日本が敗戦の混乱から立ち直ろうとしているときに、関東地方を戦後最大の台風が襲いました。その名はカスリーン。8日太平洋上に発生した低気圧は、硫黄島・鳥島から浜松沖に達し、北東に進路を変えて御前崎、新島を経て15日未明に房総半島南端を通過しました。この間、利根川の水源地には明治43年・昭和13年以来の豪雨が降り注ぎ、本川はもとより支川の水位も急激に上昇しました。

渡良瀬川流域も同様に、9日から秋雨前線による降雨で地盤がゆるんでいるところに、14日から15日、上流の足尾で、386mm、桐生で370mmの集中豪雨となり、特に赤城山東南斜面への降雨はものすごく、大量の土砂を伴った土石流が流れくんだり、東・黒保根村及び大間々町に大災害をもたらしました。一方下流の桐生・足利市区間では、渡良瀬本川及び支川がズタズタになり、なかでも、桐生市の赤岩下流左岸の越水破堤、足利市の十念寺堤の越水破堤により両市は未曾有の被害を受けました。渡良瀬川流域での死者・行方不明者は、700人とも500人ともいわれています。

それから半世紀がたち堤防や砂防ダム等の整備も図られ、未曾有の被害をもたらしたカスリーン台風の記憶も次第に薄れつつあります。そこで当時の写真等を収集し、人々の記憶を辿ることで惨禍を思い起こし、次の世代に引き継ぐとともに、洪水等の災害に対する戒めと新たな心構えとしたいと考えています。

そんな願いから編集したのが本写真集と聞き取り集です。併せてご一読いただき、渡良瀬川流域の安全な暮らしに思いを馳せていただければ幸いです。

平成10年3月

建設省関東地方建設局
渡良瀬川工事事務所

目次

1. カスリーン台風の概要	4
1) 気象状況	4
2) 雨量	5
3) 水位	6
4) 流量	6
5) 被害状況	7
6) 浸水区域図	8
2. 昭和22年カスリーン台風による被害状況写真	10
1) 東村・黒保根村・大間々町	10
2) 桐生市	16
3) 足利市	22
4) 桐生市付近の米軍写真と現況	32
5) 足利市付近の米軍写真と現況	34
3. その他主要洪水	36
1) 明治43年台風	36
2) 昭和13年台風	40
3) 昭和24年キティ台風	47
4) 昭和41年台風	50

1. カスリーン台風の概要

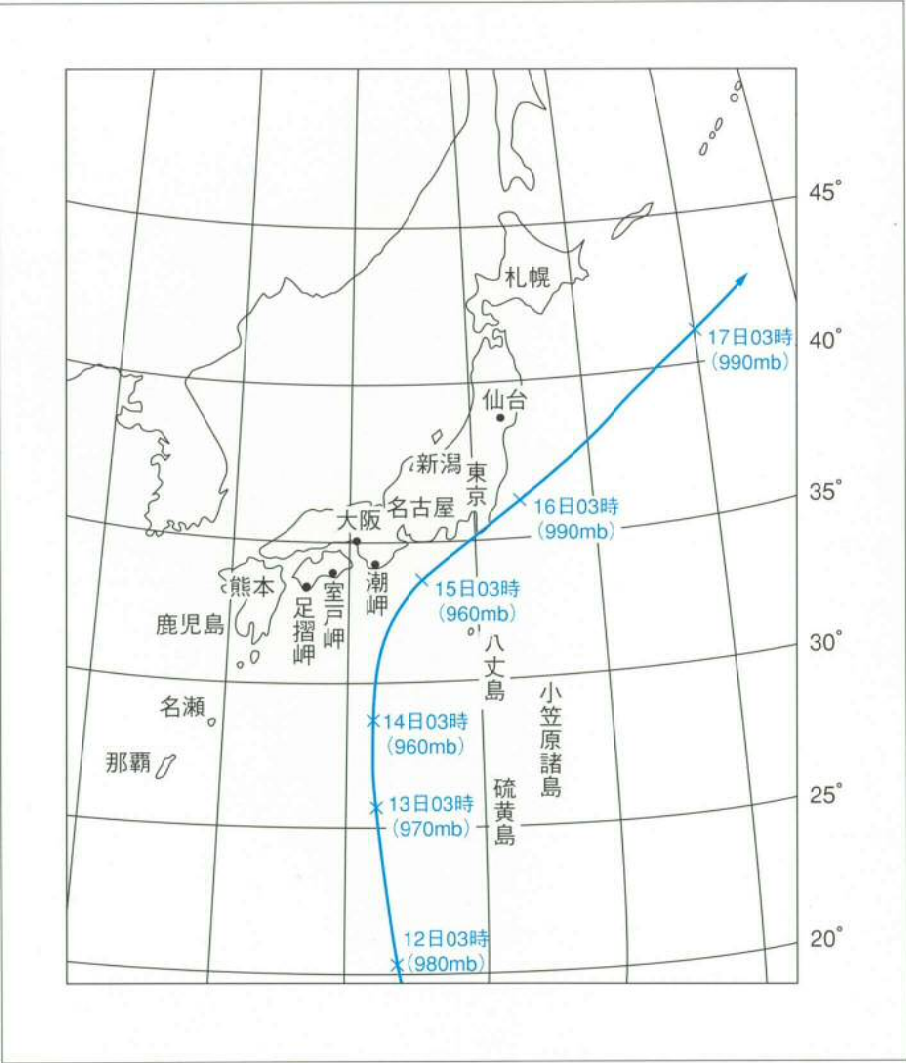
カスリーン台風当時の記録から気象状況・雨量・水位・流量・被災状況についての概要を以下に示す。

1) 気象状況

昭和22年9月8日3時マリアナ東方1,000kmの海上に1,010ミリバールの弱い低気圧が発生し、11日の3時ごろはマリアナ西方500kmの海上に達し、次第に発達して中心志度は994ミリバールとなり台風としてはっきり認められるに至った。そして、この台風はカスリーン（KATHLEEN）台風と呼ばれることとなった。

カスリーン台風はその後更に発達しつつ方向を変じ15日朝6時頃には浜松南方170kmの沖合いに達し、その頃より次第に衰弱しはじめ15日20時には房総半島南端を通過し、北海道南東海上に消え去った。

昭和22年カスリーン台風進路図



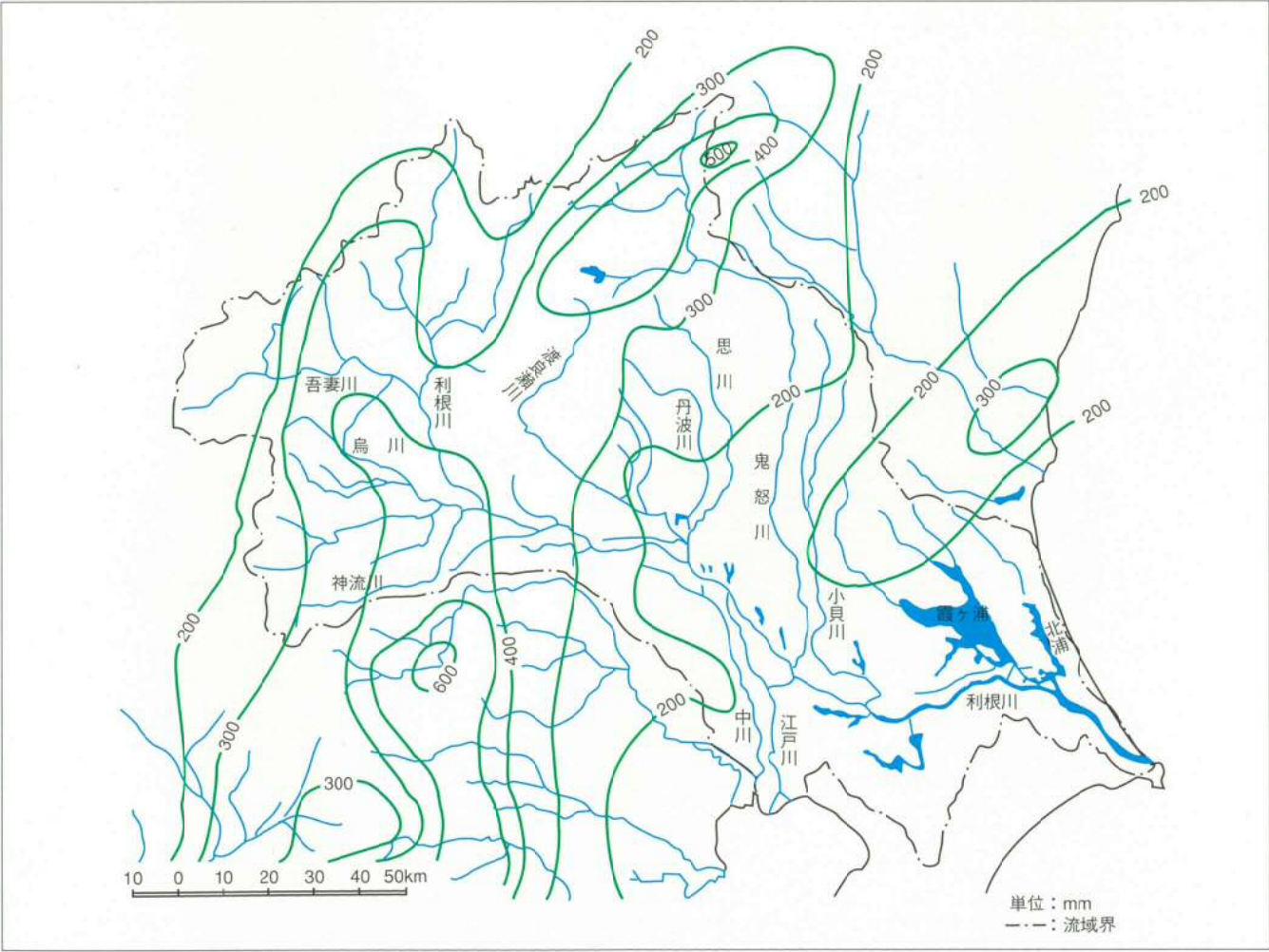
2) 雨量

カスリーン台風は本州に近づき暖湿気が侵入し13日より各地に降雨をもたらし15日より16日にかけて房総沖をかすめて北東へ去ったがこの間南東に面したところでは降雨は200mm以上となった。中でも秩父においては13日11時20分～15日20時40分の間に610.6mmという記録的豪雨となり、1時間雨量（15日13時～14時）78.0mmという強度であった。降雨はあらかじめ秋雨前線によって多少雨が降ったところへカスリーン台風による強雨が加わった点の特徴である。渡良瀬川流域における今回の3日間雨量（事実上1.5日降雨）と明治43年8月6日～11日、昭和10年9月22日～25日、昭和16年7月20日～22日の一連続降雨量を比較した降雨量を下表に示す。この結果から、桐生観測所においては既往最大値となり、さらに足尾観測所でもかなり大きな値を示し、流域に対し、一律に同様の大量の雨が降った。

3日間降雨量

河川名	観測地名	降雨量 (mm)			
		S22.9.13-16	M43.8.6-11	S10.9.22-25	S16.7.20-22
渡良瀬川	桐生	370.0	205.5	160.8	166.3
	足尾	386.0	419.5	228.0	340.6

雨量分布図



3) 水位

関東地方一帯を襲ったカスリーン台風は記録的豪雨をもたらしその水位もまた記録的な数値を示した。
今回の出水は9月10日前後日にわたり秋雨前線により各地共多少の降雨があったため、各河川いずれも大出水となり、特に利根川、鳥川、渡良瀬川、江戸川、那珂川などそのいずれも既往の洪水の最高水位を上回った。
渡良瀬川では、基準観測地点である足利において、当時の計画高水位を2m程度上回る水位となった。

4) 流量

水位が高かったため、流量もこれに応じてまた著しく大きかった。最高水位記録時は15日夜半であったため、大河川の上中流部並びに出水の早い中河川においては流量観測が非常に困難であった。

昭和22年9月洪水最大流量一覧表（観測方法：表面浮子による）

河川名	観測箇所	昭和22年9月洪水			既往洪水			S22年 当時の 計画高水 流量
		日時	最大流量	平均流速	S10.9	S13.9	S16.7	
渡良瀬川	早川田	15-20.45	3,819	2.25		3,200 (推定)	2,962	2,800
〃	藤岡	—	—	—	1,036	3,175	2,681	2,800

5) 被害状況

カスリーン台風は、おもに東日本地方に大きな被害をもたらした。関東地方では利根川水系で土石流や河川の氾濫により、多くの人命が失われ、家屋流失に見まわれた人も多かった。その被害の実態を下表に示す。当時非常に混乱していたことが数値の不整合に良くあらわれている。

カスリーン台風の被害の実態

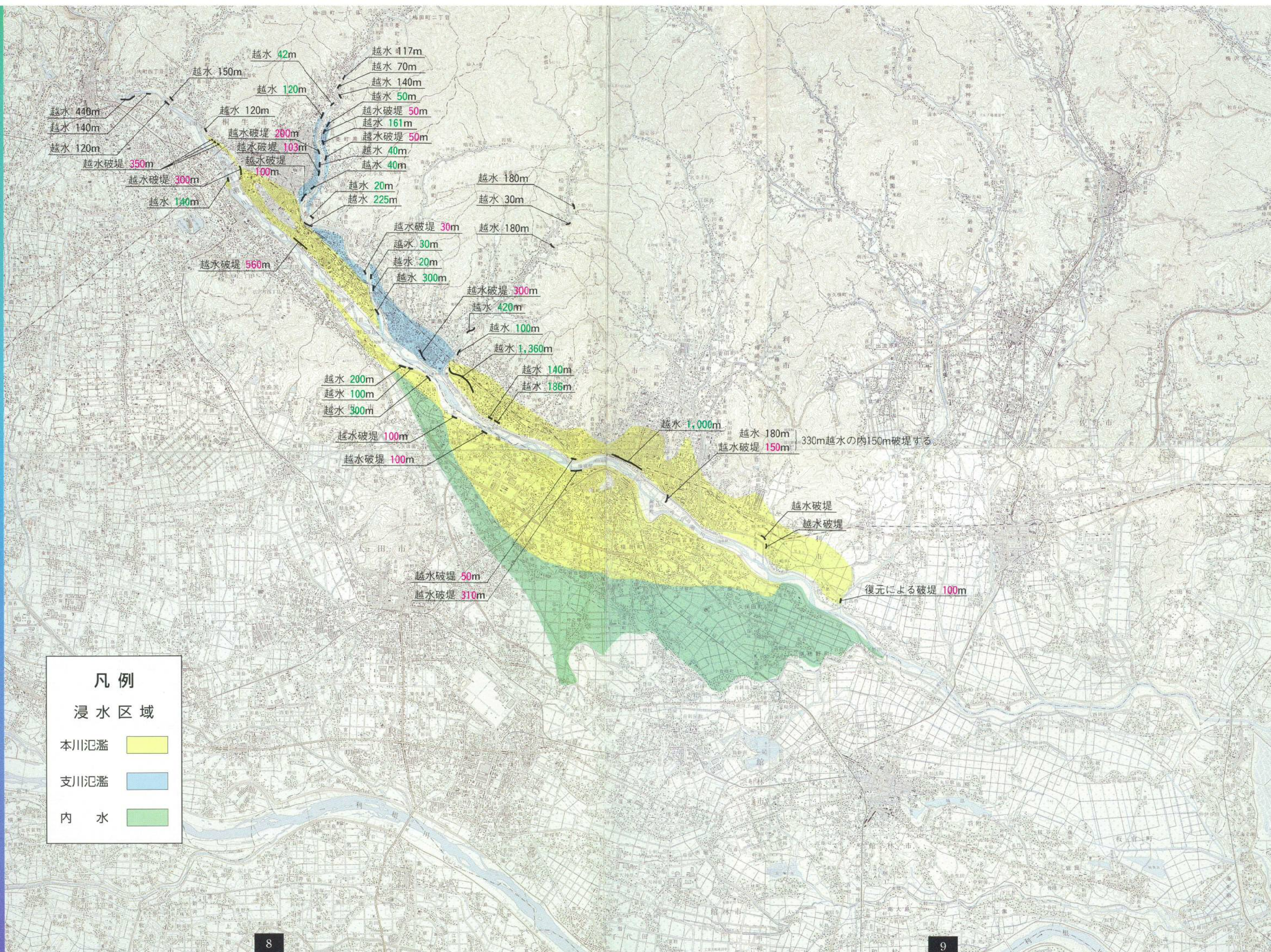
	死者 (人)	行方不明 (人)	傷者 (人)	流失 (戸)	全壊 (戸)	半壊 (戸)	床上浸水 (戸)	床下浸水 (戸)	田畑の浸水 (ha)	
全国	1,910	—	—	—	—		—	—	—	
栃木県	352	—	550	2,417	—	3,500	45,642		24,402	
群馬県	592	—	315	19,936	—	1,948	31,091	39,938	62,300	
利根川水系	1,100	—	2,420	23,736	—	7,645	303,160		176,789	
渡良瀬川流域	709		—	—	2,070		18,279	13,500	—	河川災害史 調査(S57)

渡良瀬川では上流部の群馬県東村、黒保根村及び大間々町で、赤城南東斜面の未固結な火山性堆積物が崩壊し、土石流を発生させた。さらに大間々町より下流部の渡良瀬川においては本川支川合わせて約40箇所もの堤防が越水あるいは越水破堤した。このため未曾有の山地荒廃とあいまって、各河川の氾濫は莫大なる耕地の流失、家屋の破壊を伴い浸水面積は大きかった。また、特に被害の大きかった足利市と桐生市の被災状況は次に示すとおりである。

足利市・桐生市の被害の概要

市町村	死者 (人)	行方不明 (人)	計 (人)	流失 (戸)	全壊 (戸)	半壊 (戸)	床上浸水 (戸)	床下浸水 (戸)	計 (戸)	備考
足利市	252	67	319	372	328	257	11,976	5,773	18,706	足利市消防資料
桐生市	113	33	146	213	139	461	4,929	6,614	12,356	桐生市史

浸水区域図



2. 昭和22年 カスリーン台風による被害状況写真

1) 東村・黒保根村・大間々町



不通となった足尾線の復旧作業状況（東村）



現在のわたらせ渓谷鉄道（東村）

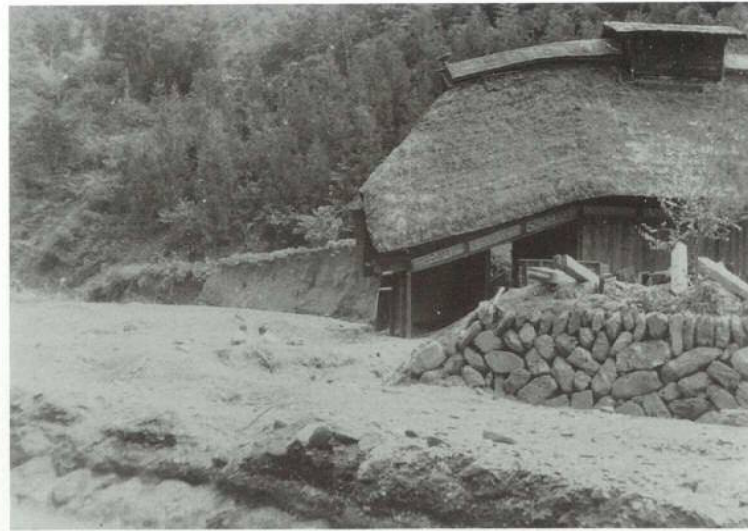


不通となった足尾線の復旧作業状況（東村）

激しい土石の流れに
浸る家屋
（東村）



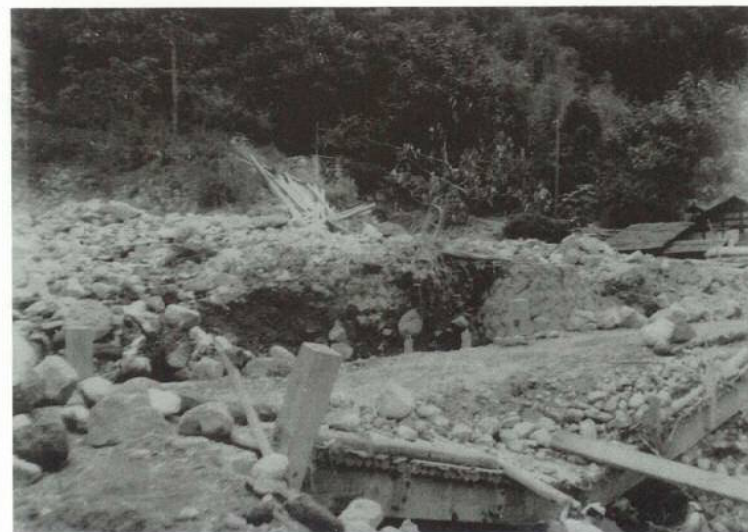
川岸が浸食され
傾いた家屋
(黒保根村沢入地先)



被災した梨木温泉
(黒保根村梨木地先)



土石流によって
破壊された早房橋
(黒保根村)



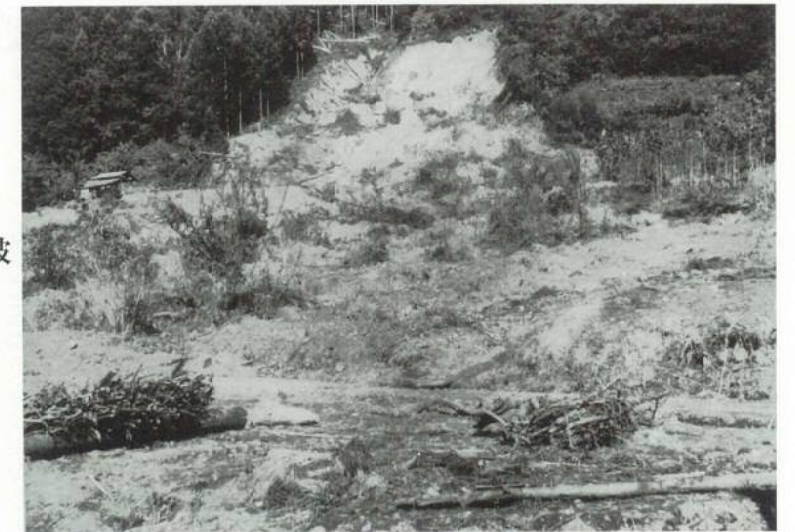
被災した家屋
(黒保根村城下地先)



土石流により
運ばれてきた土石
(黒保根村姥懐地先)



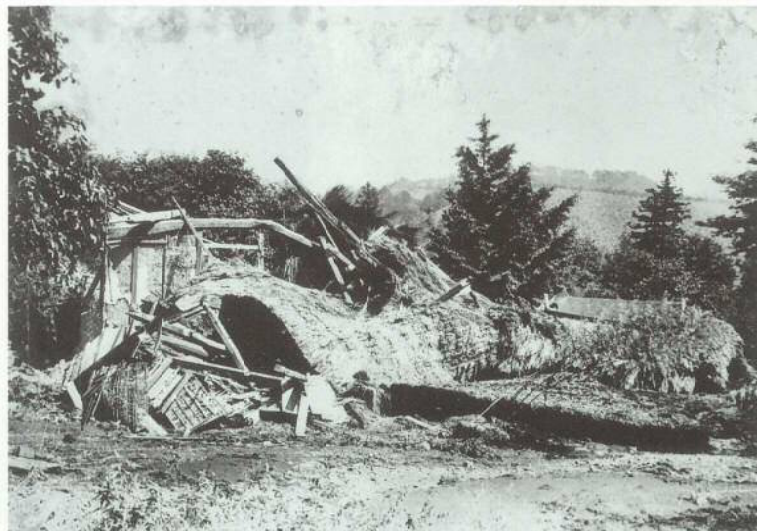
貴船神社付近の山津波
(大間々町・旧福岡村)



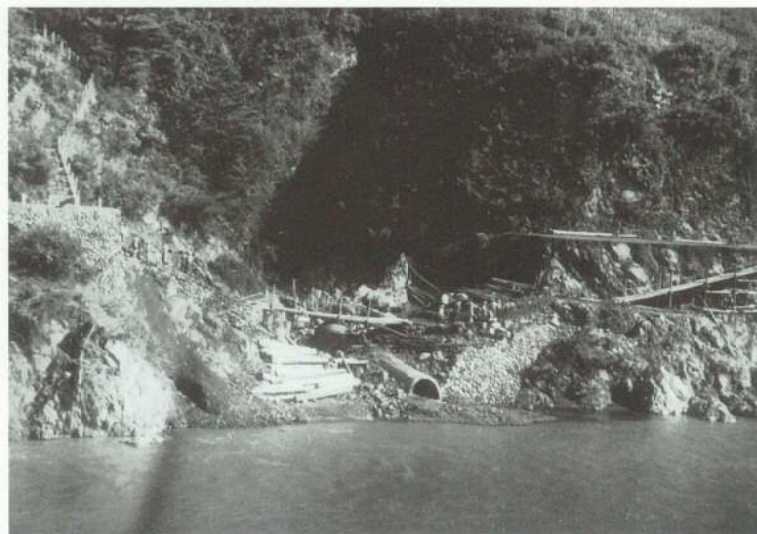
被災状況
(大間々町・塩沢地区)



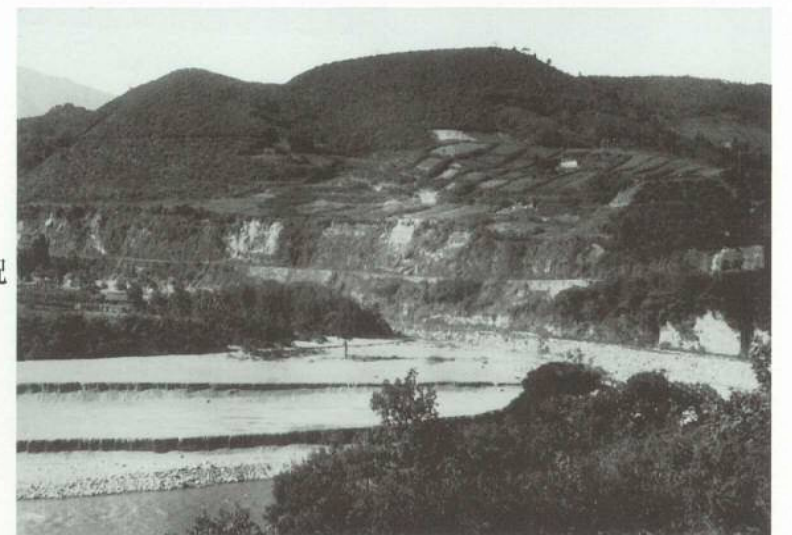
倒壊した家屋
(大間々町)



不動橋の決壊
(大間々町・旧福岡村)



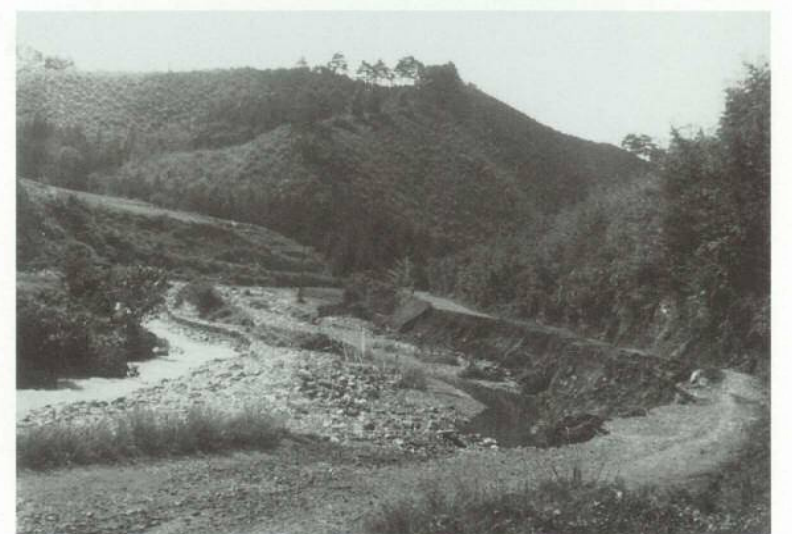
川面より見た
県道(新道)の決壊状況
(大間々町・旧福岡村)



川原と化した
旧中央小前の稲田
(大間々町・旧福岡村)



小平地区の道路決壊
(大間々町・旧福岡村)



2) 桐生市



倒壊した新川グラウンドのスタンド（稲荷町）



現在の新川公園（稲荷町）

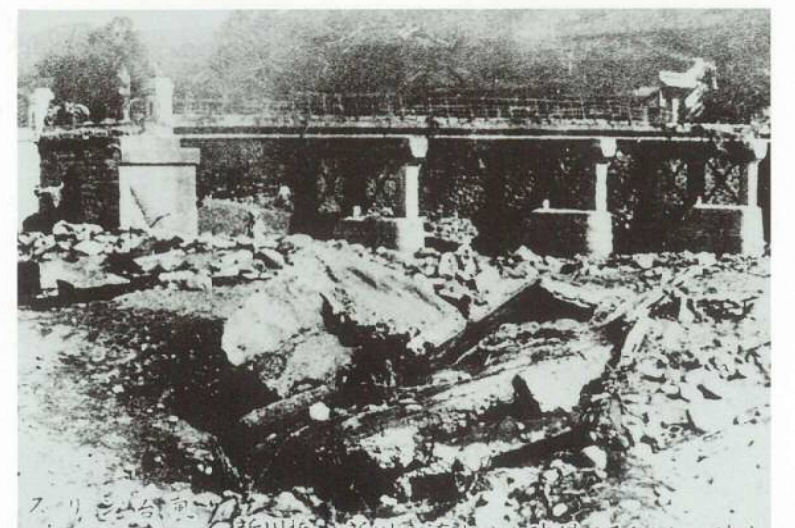
洪水による爪痕も
生々しい流失寸前で
難を逃れた新川沿いの
住宅
（巴町）



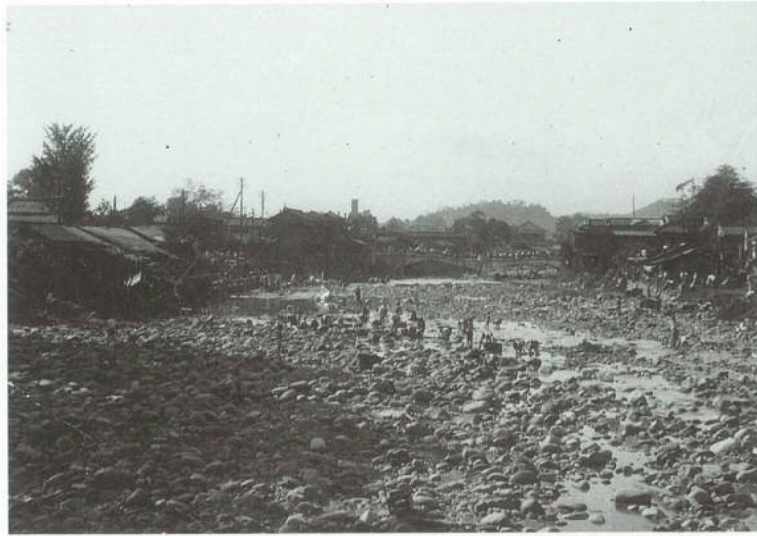
新川グラウンド付近に
堆積した土砂
（稲荷町）



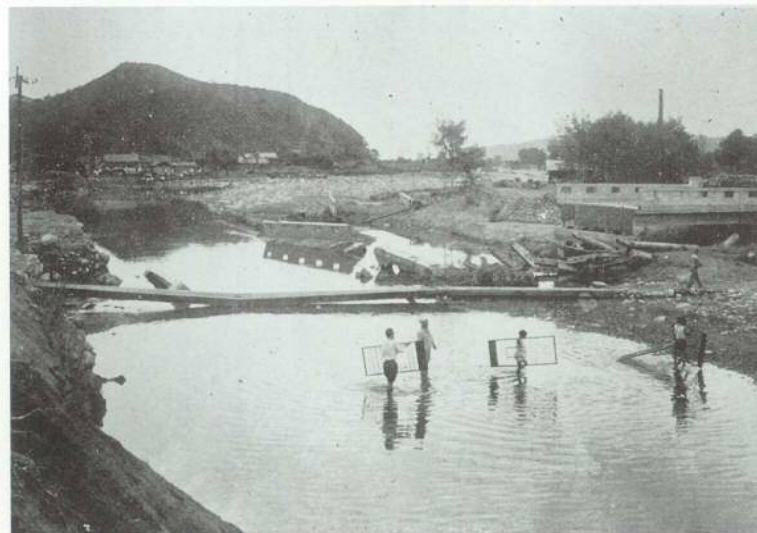
新川に流れ込んだ
グラウンドの破片
（稲荷町）



洪水後川幅が
大きく広がった新川
(桐生市内)



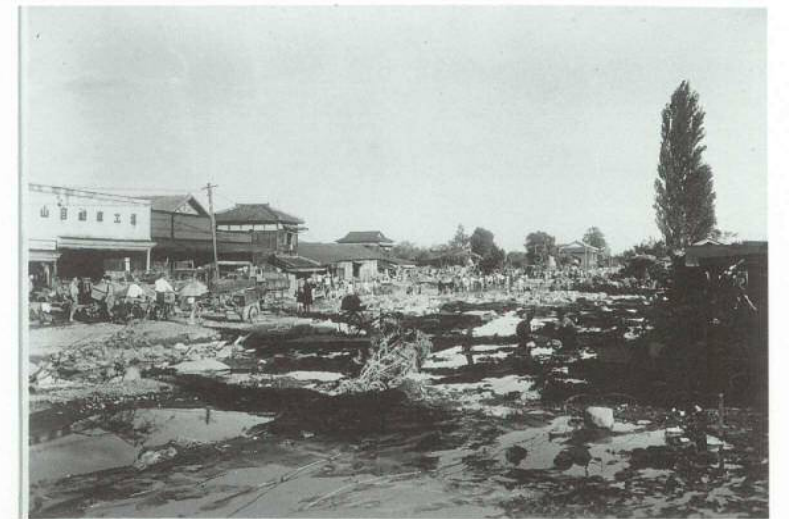
半壊した安楽土橋
(浜松町)



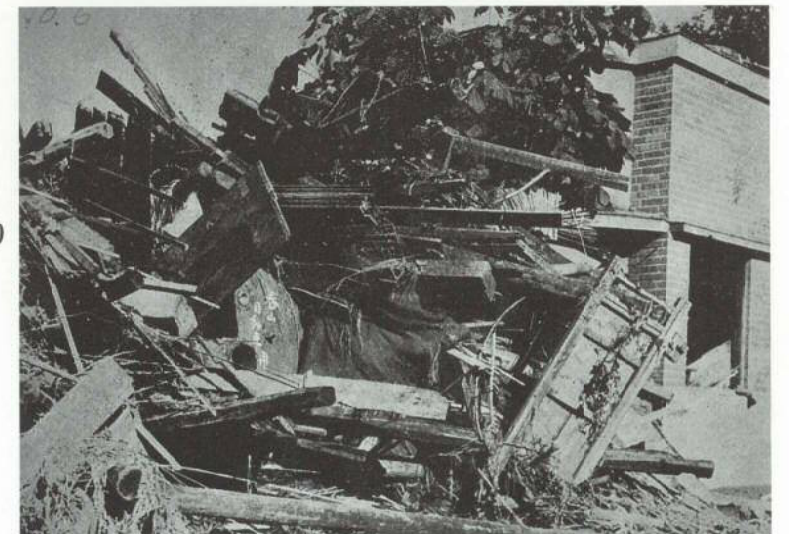
中通りに堆積した
土砂の山
(浜松町)



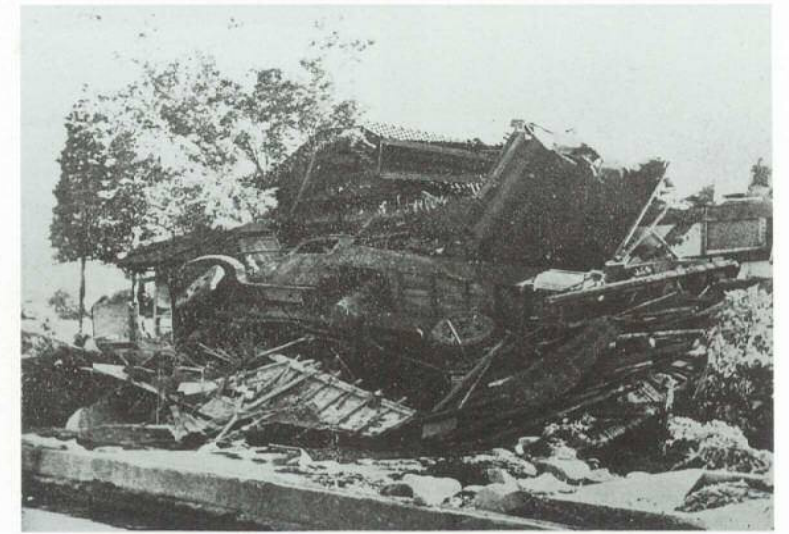
洪水流が走った
昭和通り(旧50号)の
状況
(新宿町)



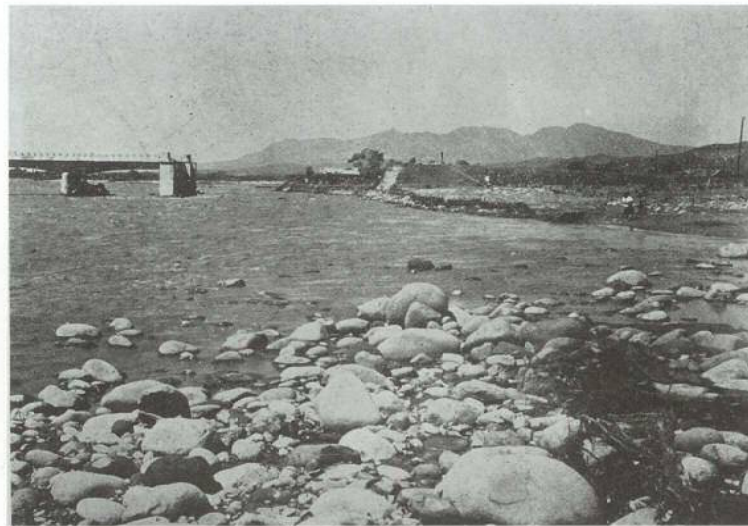
殿林交番に突き当たり
山積した流出物
(境野町)



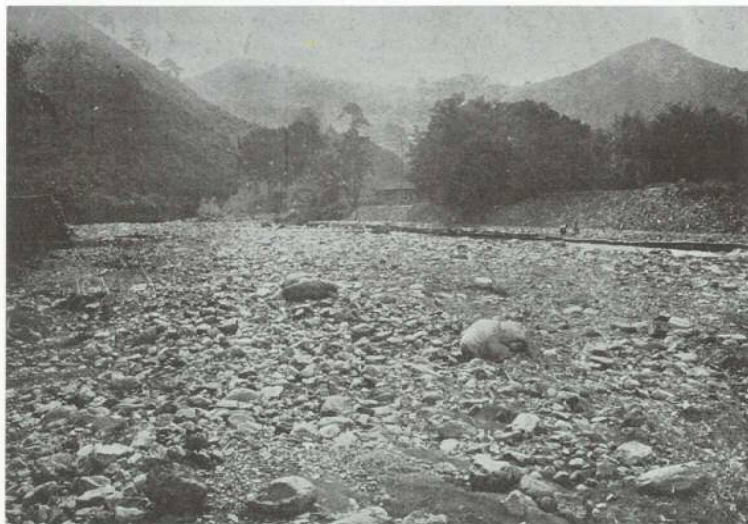
二階より高く
押し上げられたトラック
(境野町)



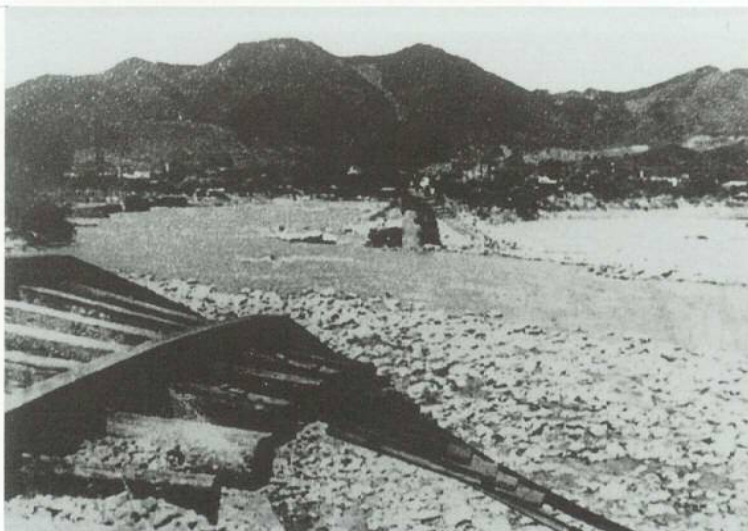
渡良瀬川昭和橋
堤防決壊で交通杜絶
(琴平町)



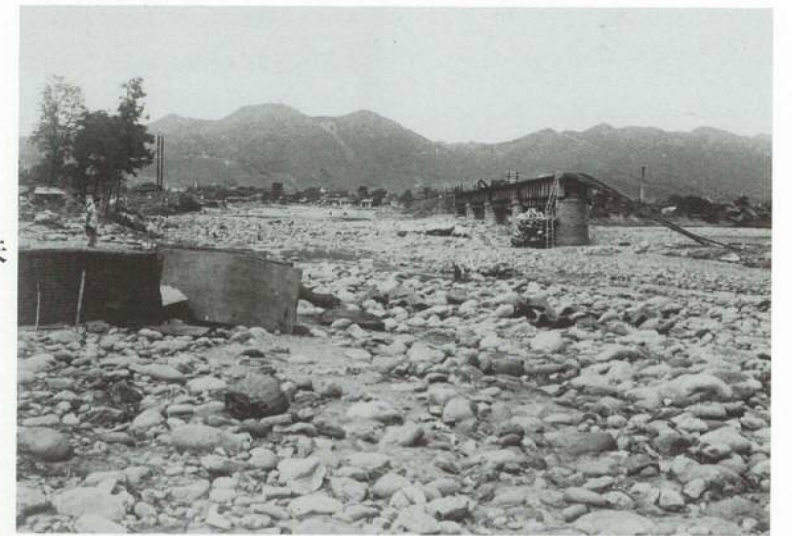
桐生川天神橋の流失跡
(天神町)



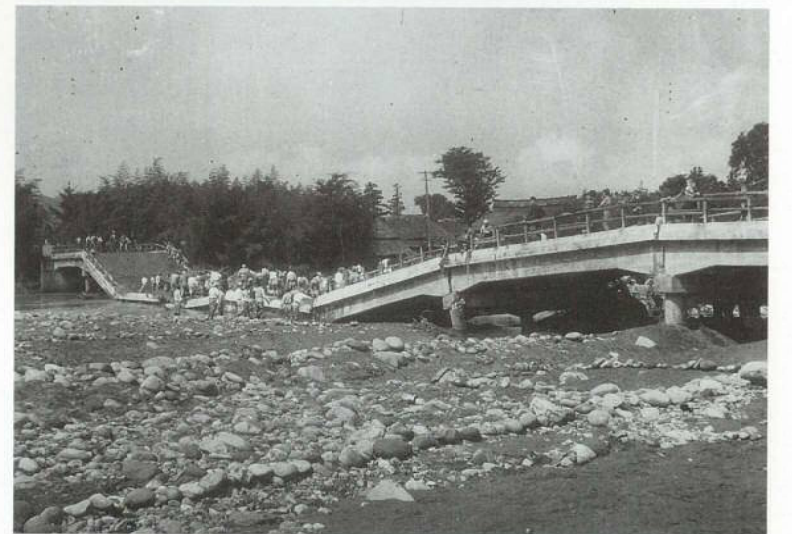
桐生川沿いに走る
両毛線の被災状況
(境野町)



両毛線桐生川鉄橋流失
(境野町)



桐生川にかかる
旧50号線境橋の被害
(境野町)



流失・倒壊で家を
失った子供
(桐生市内)



3) 足利市



激しい流れの中命綱を頼りに歩く人々（通2丁目）



現在の通2丁目

連台寺川の被害状況
（緑町2丁目）



被災した工場の内部
（緑町2丁目）



被災した工場の内部
（緑町2丁目）



舟で往来する住民
(通6丁目付近)



浸水状況
(通6丁目付近)



冠水した両毛線の
踏切周辺
(通2丁目)



商店街に氾濫した
洪水のなかを歩く人々
(通2丁目)



浸水の中たたずむ人
(通2丁目)



浸水した街中を
歩く人々
(通2丁目)



浸水した市内を
歩く人々
(通2丁目)



胸までつかるほどの
浸水
(通1丁目)



両毛線の様子
(通1丁目)



市内に堆積した土砂 (通1丁目)



足利市の様子 (郵便局保健分室前)



浸水した市内を歩く人々(足利市内)



浸水した市内を歩く人々 (足利市内)

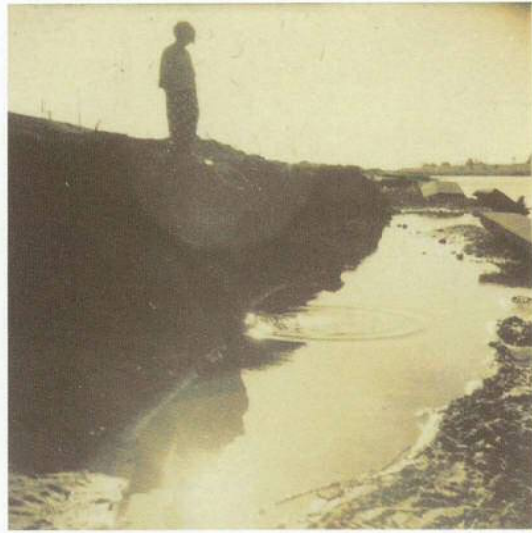


富永公園付近の濁流 (相生町・伊勢町付近)



水災救護相談所 (助戸地内)

洪水によってえぐられた
渡良瀬川本川の河岸
(猿田町)



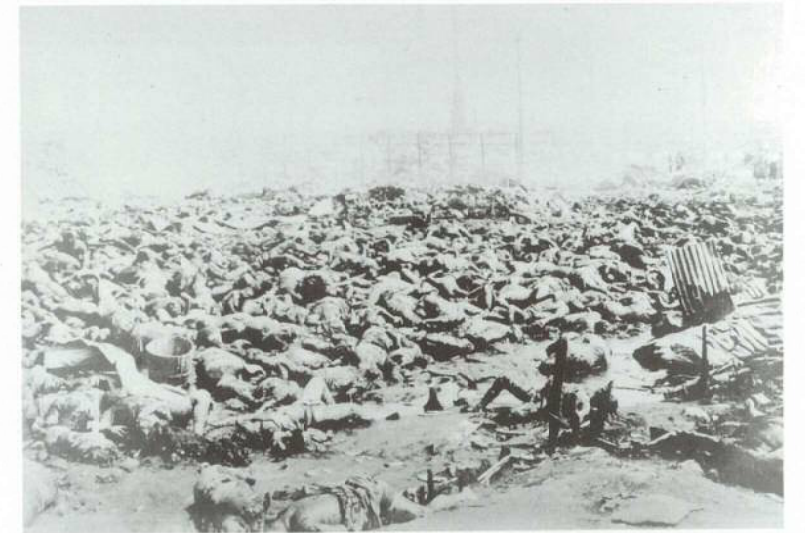
カスリーン台風により
流れ着いた石碑
(若草町)



平成8年9月に行われた
犠牲者五十回忌追悼式
(千歳町)



遺体の状況
(足利市)



遺体の状況
(足利市)

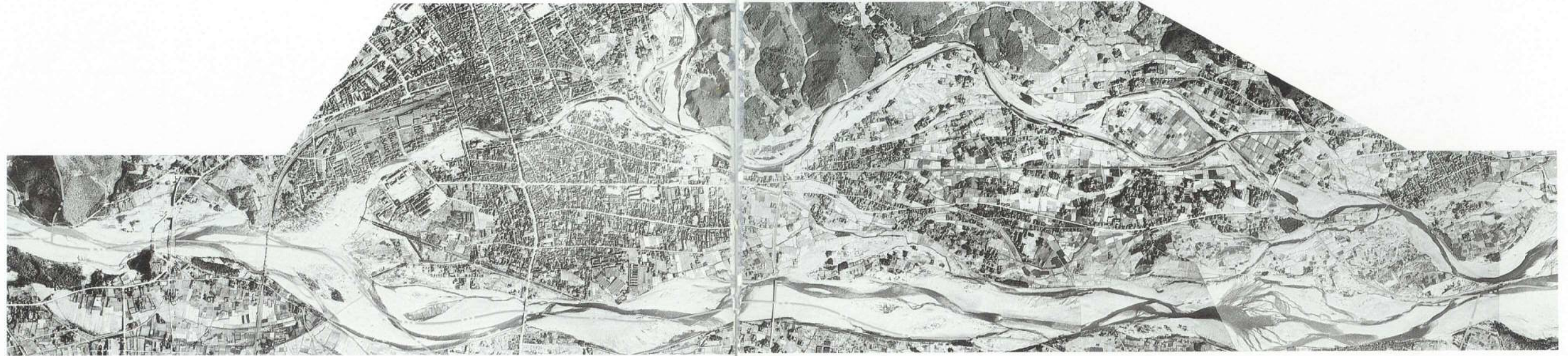


遺体の状況
(足利市)



4) 桐生市付近の米軍写真と現況

上段は昭和22年水害後の桐生市街地を中心とした渡良瀬川の垂直写真、川以外で白く写っている部分は氾濫流が流れた痕跡です。下段は平成8年に撮影した同区間の垂直写真で堤防が整備され、河川敷も有効に活用されているのがわかります。



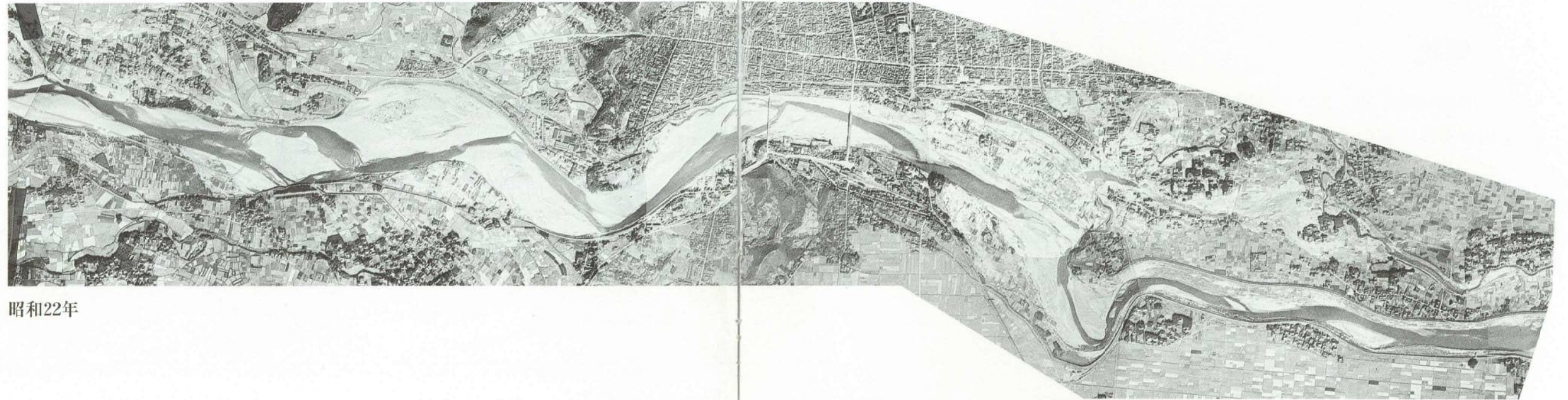
昭和22年



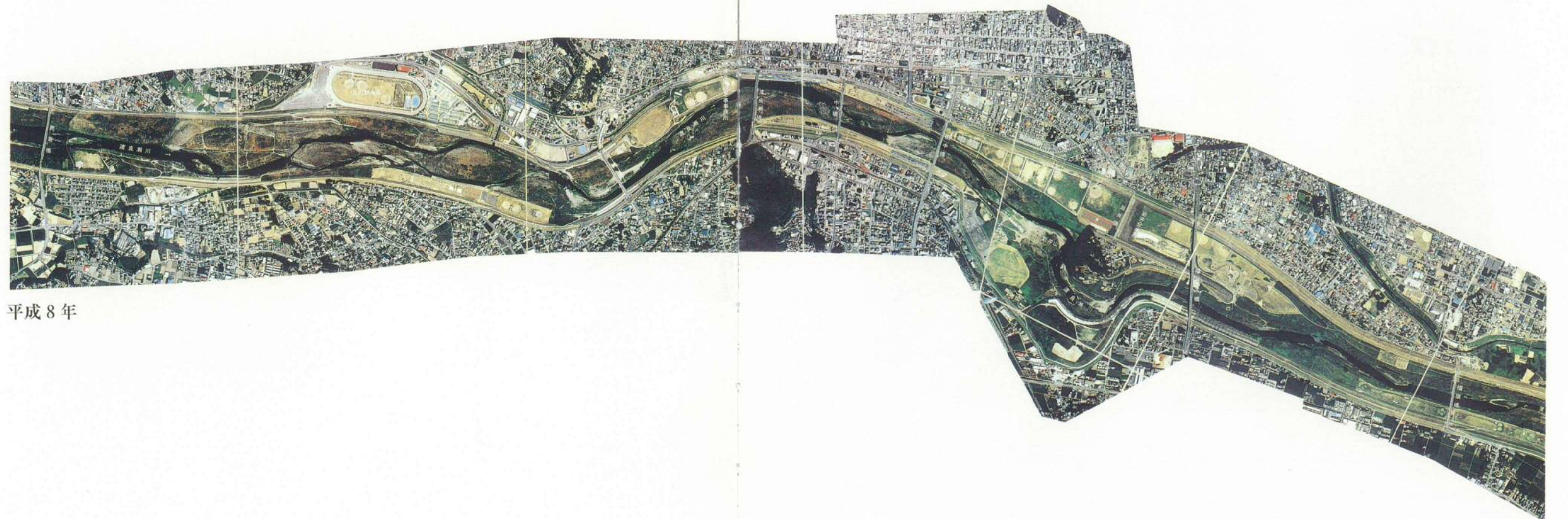
平成8年

5) 足利市付近の米軍写真と現況

上段は昭和22年水害後の足利市街地を中心とした渡良瀬川の垂直写真、川以外で白く写っている部分は氾濫流が流れた痕跡です。下段は平成8年に撮影した同区間の垂直写真で堤防が整備され、河川敷も有効に活用されているのがわかります。



昭和22年



平成8年

3. その他の主要洪水

1) 明治43年台風

○概要

明治43年8月、2つの台風の相次ぐ房総半島通過により記録的な豪雨となり、関東地方の平野部一帯が浸水、各地が大きな被害に見舞われました。渡良瀬川流域でも破堤・越水が続出。渡良瀬川では4箇所が破堤し各地が泥海に浸かりました。特に、群馬県の館林町（現・館林市）は全部水中に没してしまうほどでした。被害は群馬・栃木両県を合わせて死者377人、行方不明53人、負傷者158人以上、全壊・流出家屋2256戸以上に達し、明治最大の洪水となりました。

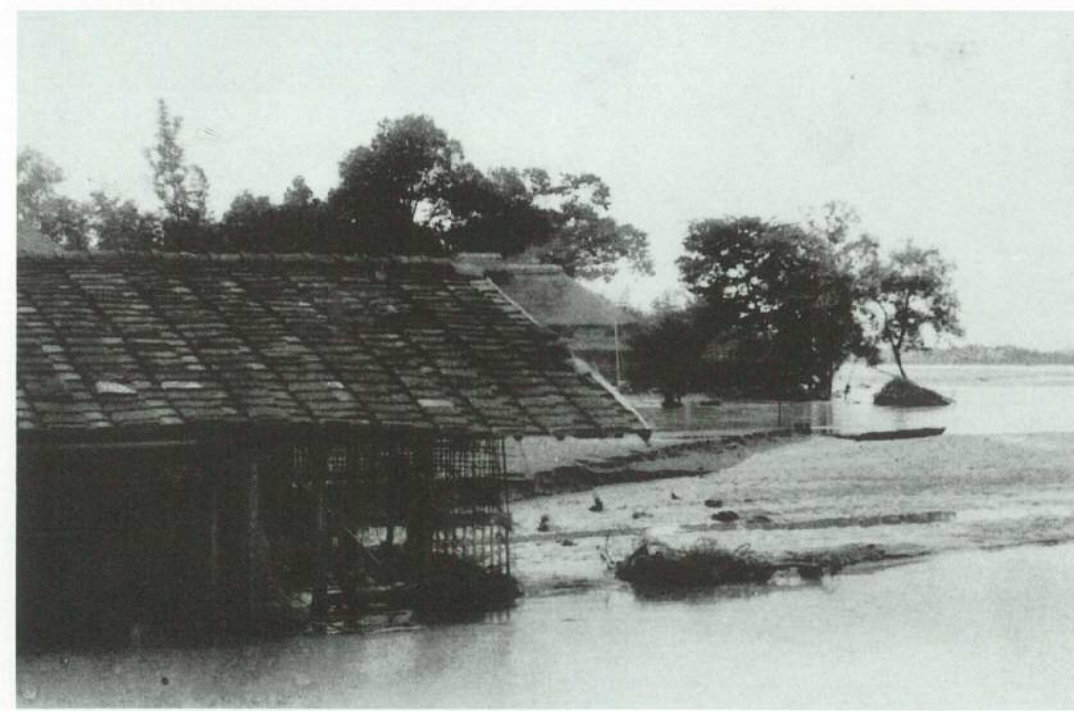
○被害写真



桐生市の被害状況

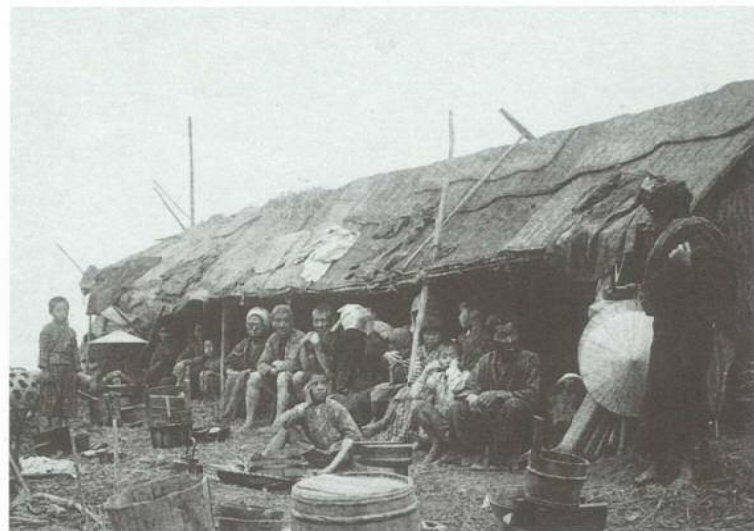


足利郡毛野村付近の被害状況（現・足利市）

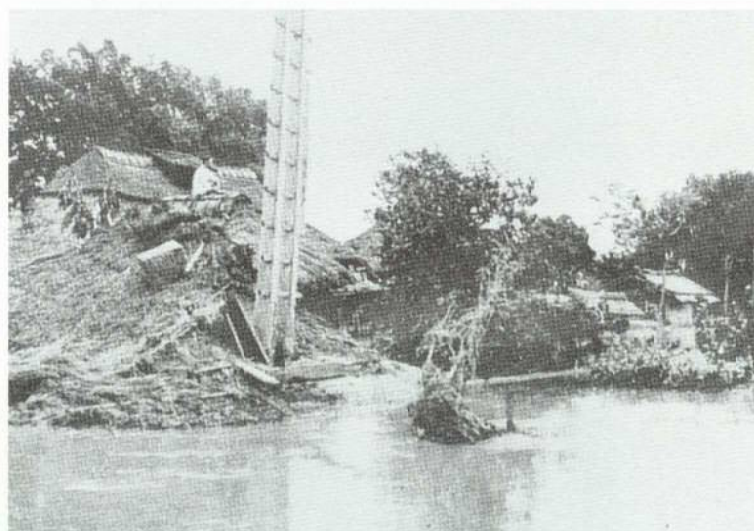


足利郡毛野村付近の被害状況（現・足利市）

邑楽郡大佐貫村付近
被災者の状況



邑楽郡三野谷村
被害の惨況



邑楽郡三野谷村の
避難所状況



邑楽郡富永村付近の濁流状況



邑楽郡六郷村より被害地への食糧運搬状況

2) 昭和13年台風

○概要

昭和13年8月。三浦半島に上陸した台風が栃木県の西を北上して新潟県から日本海へと通過し、足尾で降水量が407.2mmを記録するなど各地に豪雨がもたらされました。これにより、渡良瀬川、桐生川、旗川の堤防が決壊する大洪水が発生。足利市で浸水家屋が6392戸に達したほか、足利・桐生市の田畑2200町歩が泥海に浸かるなど大きな被害を受けました。

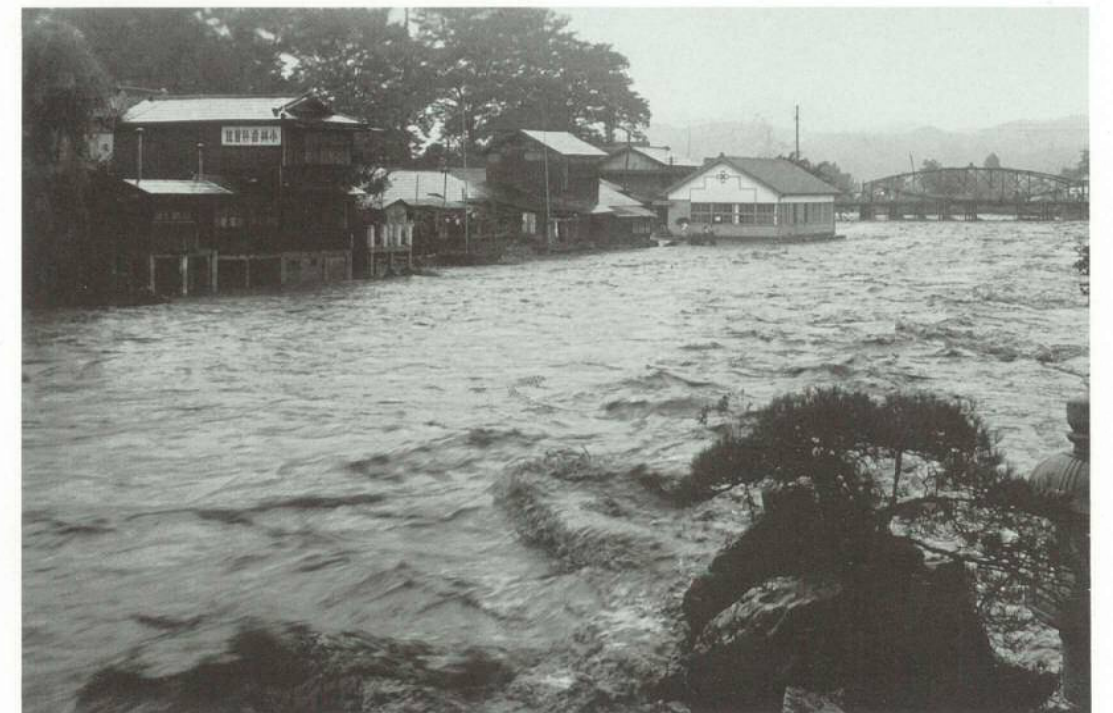
○被害写真



両毛線鉄橋から見た渡良瀬川の赤岩付近（桐生市）

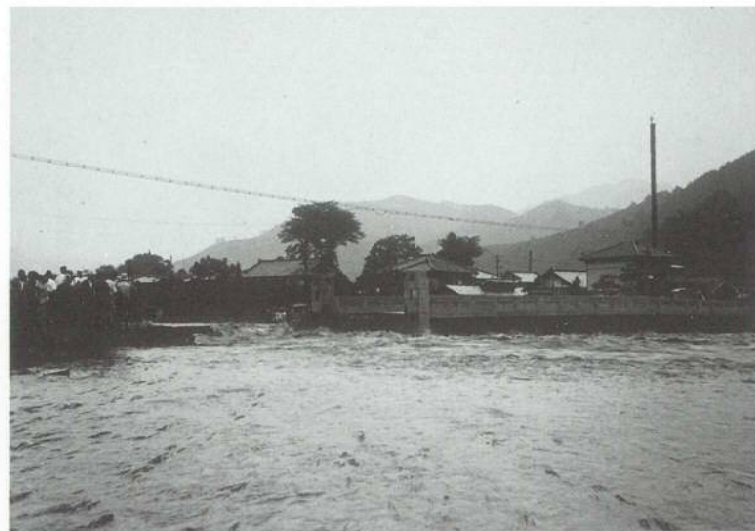


浸水状況（赤岩付近・桐生市）

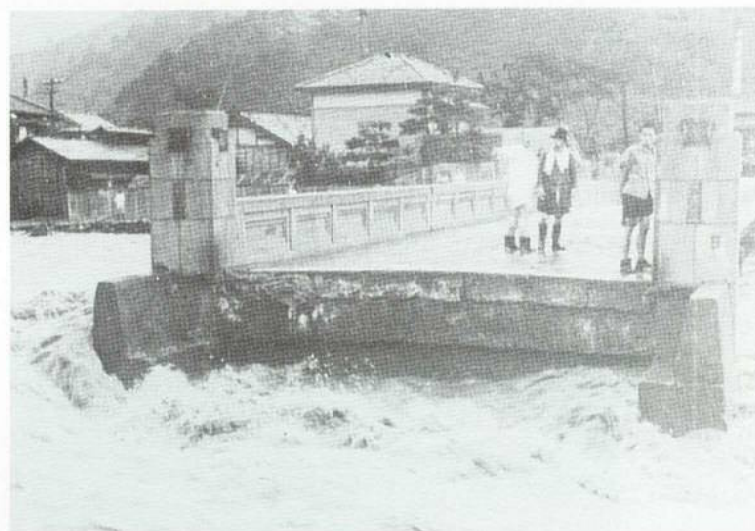


危機に瀕する新川筋、盛運橋より桐生橋を望む（桐生市）

流失した桐生川
稲荷橋
(桐生市)



流失した桐生川の
稲荷橋
(桐生市)



浸水状況
(桐生市内)



渡良瀬川本川の濁流 (足利市)



洪水の状況 (緑町付近・足利市)

足利学校の浸水状況
(昌平町・足利市)



水のなかの錢阿寺本堂
(家富町・足利市)



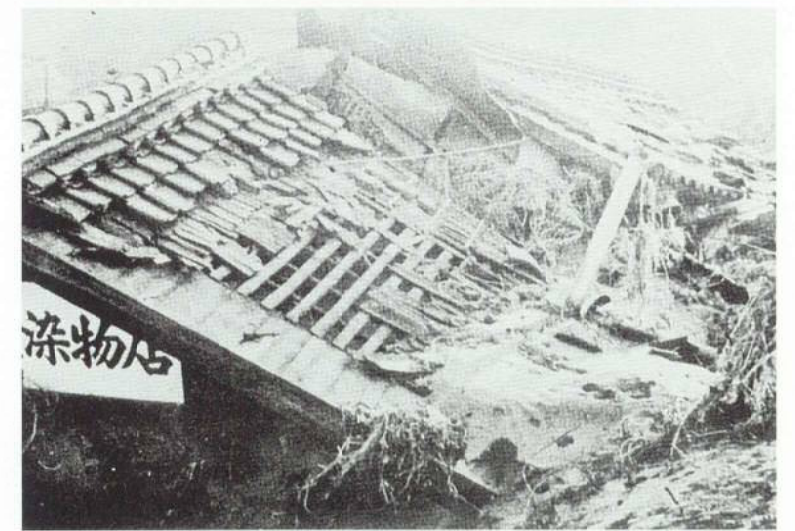
水びたしの商店街
(足利市内)



市内に堆積した土砂
(足利市内)



倒壊した家屋
(足利市内)



被災後の状況
(足利市内)





舟で往来する人々（足利市内）



洪水後の被害状況（十念寺地先・足利市）

3) 昭和24年キティ台風

○概要

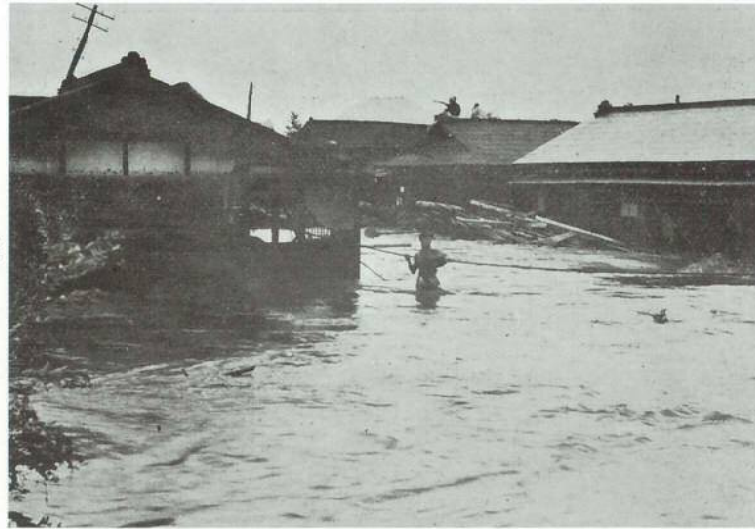
昭和24年8月、キティ台風が小田原付近に上陸し、八王子、秩父・前橋の各西方を通過して、日本海に抜けました。足尾付近の降雨量446.1mmなど豪雨となり、渡良瀬川、鬼怒川で大きな出水を見た結果、各地で浸水被害が発生しました。「栃木全県の被害は死者12人、負傷者37人、家屋全壊248戸、半壊2318戸、床上浸水722戸、床下浸水1493戸、堤防決壊73箇所、橋梁流出68箇所、道路不通66箇所、鉄道不通40箇所」また、群馬全県の被害は、死者47人、行方不明者3人、床下浸水2615戸、床上浸水1071戸、倒壊流出家屋249戸、道路損壊149箇所、橋梁損壊583箇所、河川損壊803箇所、耕地流失2779町歩、などで農業関係の被害が大きかった。

○被害写真



氾濫による被害状況（桜木町付近・桐生市）

ロープによる救援作業
(桜木町付近・桐生市)



復旧状況
(桜木町久保田ポンプ店
付近・桐生市)



氾濫による被害状況
(桜木町付近・桐生市)



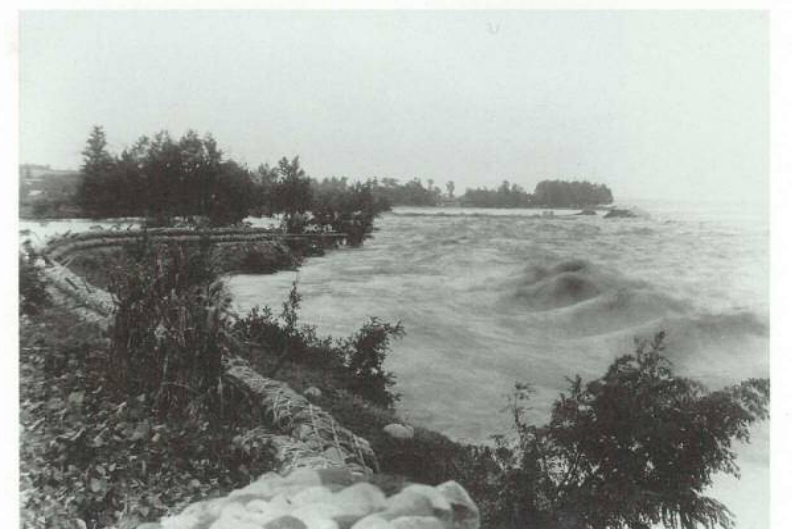
濁流にのみ込まれた
家屋
(桐生市)



流失した田畑を
呆然と見つめる農民
(広沢1丁目・桐生市)



荒れ狂う濁流
(境野町三ツ堀地先・
桐生市)



4) 昭和41年台風

○概要

昭和41年9月。台風4号による関東地方の総雨量は、山間地で400mmを超え、平野部でも東京・埼玉・神奈川の一部で300mmに達しました。渡良瀬川では、上流域に240mmの降雨がありましたが、欠壊等の被害はありませんでした。しかし、右支川の矢場川、その2次支川の多々良川等が出水して、浸水総面積17.4km²、床下浸水40戸、被害農地5.4km²などの被害となりました。

○被害写真



桁下すれすれに流れる渡良瀬川（足利市渡良瀬橋）



渡良瀬川〔中橋〕の洪水状況を左岸より望む（足利市・南町）



胸までつかるほどの浸水（足利市）

カスリーン災害記録集Ⅰ
洪水写真集

発行年月日	平成10年 3 月31日
企 画 編 集	建設省渡良瀬川工事事務所
協 力	足利市・桐生市
発 行	建設省渡良瀬川工事事務所 栃木県足利市田中町661-3
